



連載

令和新時代

医療への事務的アプローチ

メディカル・データ・ビジョン株式会社

広報室 君塚 靖

第 58 回

広報誌は病院・介護施設スタッフの思いを伝えるツール 「慈生会だより」を制作するうえで大切にしていること

社会医療法人慈生会経営企画室広報部の大島茉野さんにインタビューしました。

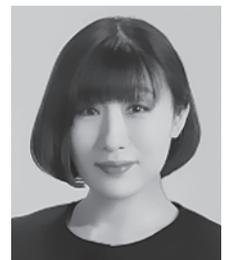
思いを伝える広報誌づくりを目指して

インタビューにあたり、大島さんは下記のように語りました。

大学院卒業後、教員養成の大学で舞踊教育学の教鞭をとり、体操やダンスのようなノンバーバル（言葉を使わない）コミュニケーションで表現することを仕事にしていた私は、5年前に慈生会に入職しました。本会広報部に所属しています。病院・介護施設のスタッフが懸命に医療や介護に取り組むリアルな姿を患者さまや利用者さま、さらにはご家族に伝えたいとの思いを胸に、広報誌

「慈生会だより」を制作しています。

患者さまは、例えば医師とであれば、診察室などでほんの短い時間しか話すことができません。また、看護師や薬剤師、さらには理学療法士といったほかの医療職や事務系の職員などとも接すると思いますが、患者さまの生活の中では、基本的に限られた時間です。人の命を扱っているだけに病院・介護施設のスタッフは日々、懸命に業務を



▲大島氏

しています。時にそれは、気ぜわしい状況になってしま
います。そういった中にいると患者さまは、戸惑いを覚
えると思います。病院・介護施設のスタッフが、本当は
患者さまや利用者さま、さらにはご家族のことをしっか
りと真剣に考えているのに、それがうまく伝わらず、勢
い、ネガティブな印象を与えることも少なくありませ
ん。その溝を埋めるために「慈生会だより」があると考
えています。

また、病院・介護施設のスタッフは多忙な毎日を送っ
ているだけに、自部署以外に関心を持つ余裕がありませ
ん。そこで、慈生会だよりを給与明細とともに職員に配
布する取り組みも始めました。グループ内の情報連携を
支援するツールとしての役割も担っていると信じています。

目を引く表紙の写真は副院長が撮影、 外来受診表は見やすいよう配慮

慈生会だよりは、年 4 回発行で最新号は2026年新春
の54号となります。等潤病院は1974年10月に足立クリ
ニックとして開設したのが始まりで、現在までに50余
年の歴史があるものの、広報誌の歴史は約15年と決し
て長くはありません。

慈生会だよりは長らく、A 3 の 1 枚を A 4 サイズに折
り込んだ 4 ページ仕立てでしたが、2022年の45号から
6 ページに増やして、51号（8 ページ）には現在とほ
ぼ同じ冊子のような体裁になりました。本記事で冒頭に
インタビューに応じていただいた大島さんは編集長であ
り、発行人として慈生会だよりの責任者です。

最近の慈生会だよりでは、等潤病院副院長で等潤メ
ディケア診療所所長の谷口泰之先生が撮影した写真が表
紙を飾るようになりました（図表 1）。大島さんは、「谷口
先生の写真を表紙に採用させていただいたのは、先生の
才能を皆さまにお伝えしたいということだけでなく、慈
生会だよりをまず手にしてもらい、自宅に持ち帰って
いただきたいとの目標があったからです」と語っています。

グループ内の広報委員会が発行する慈生会だよりの編
集コアメンバーは 6 人。それぞれ法人事務局、病院医事
課や介護老人保健施設（老健）イルアカーサ事務局など
に属しています。広報委員会は年間スケジュールを決め
る中で、各号でフォーカスするテーマを決めています。

図表 1 副院長の写真が目を引く表紙



大島さんは、「最新鋭の医療機器を導入しましたといっ
たお知らせにとどまらず、病院職員一人ひとりの医療へ
の思いが満載された誌面にしたいと考えています。その
思いが通じたのか、最近、患者さまから感想メールをい
ただけたのが、何よりの喜びでした」と話しています。

誌面構成はいたってシンプルにするように配慮されて
います。表 1 とされる表紙は、患者さまや利用者さま、
さらにはご家族の目を引くように写真を配置して、表 4
とされる最後のページには、本院の等潤病院、等潤メデ
ィカルプラザ病院、それぞれ各科、等潤メディケア診療所
の医師の外来受診表を掲載しています（図表 2：46頁）。

冊子のページをめくっていくと、巻頭言から始まり、
特定の疾患を取り上げた「症状・症例ガイド PICK
UP!」と続きます（図表 3：46頁）。また、患者の療
養に食の話題は欠かせないとして、「管理栄養士が教え
る！ 健康食生活のススメ」、さらに、慈生会の現場
“人”ゲンバビト」は定番のページになっています。こ
の冊子の構成はもともと、伊藤理事長のアイデアがベー
スになっているそうです。

図表2 外来受診表

慈生会だより Vol. 53

外来受診表

受付時間 午前 / 8:45~12:00
午後 / 13:45~16:45
休診日 日曜・祝日

等潤病院サイトで最新情報をチェック

待診・代診情報 診療料のご案内 など



ご予約・救急外来は
03-3850-8711
(病院代表)

患者サポートセンターは
03-3850-7518
(直通)

医師講演動画 配信中!

外科・叶典子医師

乳癌科を専門とする等潤病院・伊藤子医師による乳がん予防・早期発見に関する講演が行われました。医学的現場から、従来のマンモグラフィやエコー検査、そして当院MRIの乳腺腫瘍診断で痛みや被ばくのない検査について、それぞれの強みを解説しています。

医師が直接解説！詳しくはQRコードをチェック！



公式キャラクター「どくとるまーしい」

慈生会だより53号 2023年4月号 / 発行所：大島実野 発行所：社会医療法人慈生会等潤病院長室 編集：山根友美 〒121-0075 東京都足立区一ツ家 4-3-4 発行日：2023年4月1日

等潤病院 外科	月	火	水	木	金	土
午前	香口	山口	香口	日下	久野木	鈴木
午後	山口	杉山(瑞)	久野木	佐々木	青木	安部(衣)
午前	阿部(大)	高橋	新井	杉山(瑞)	岡田	
午後	本田			寺嶋	高橋(聖)	
午前	青木	沖田	青木	小野	鈴木	山口
午後	高橋	久保田	鈴木	佐々木	高橋(聖)	阿部(大)
午前	阿部(大)	佐藤	佐藤	佐藤		
午後	武内	杉山(瑞)		高橋		
午前			安部			
午後						

等潤病院 内科	月	火	水	木	金	土
午前	西富	伊藤(聖)	西渡邊	仁藤	富	吉井
午後	渡邊	小畑	西井	仁藤	交代制(※1)	交代制(※1)
午前	針(健診)	針	針	針	針	
午後	針	針	針	針	針	
午前	藤越	江富	大澤	中山	小川	樋口
午後	藤越	石井	大澤	小川	樋口	樋口
午前	藤越	石井	藤越	石井	石井	藤越
午後			杉山(夏)	田村		

※1 交代制のため、当日は直前時刻表においでを必ずご確認ください

等潤病院 皮膚科	月	火	水	木	金	土
午前			安田			
午後			安田		田中	松本(※3)
午前	針	伊藤(聖)		伊藤(聖)		
午後				川口(※2)		
午前	針	前嶋	前嶋	前嶋	前嶋	交代制
午後	久野木	高橋	石川	久野木	小畑	富
午前	小畑			久野木	久野木	
午後						

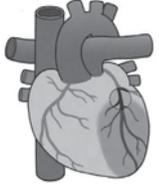
等潤メディカル プラザ	月	火	水	木	金	土
午前			宮崎		谷口	
午後			沖田	杉山(夏)	藤越	
午前	日下	丸島	日下	西山	日下	
午後			丸島	西山	交代制	

図表3 「症状・症例ガイド PICK UP！」

症状・症例ガイド 狭心症

PICK UP!

狭心症とは、心臓に血液を送る血管(冠動脈)が狭くなり、十分な酸素やエネルギーが供給されなくなることによって、胸の痛みや圧迫感などの症状が生じる病気です。当院の循環器内科では、血液検査やレントゲン、心電図、心臓超音波検査などに加え、冠動脈CTと呼ばれる検査も可能で、予防についても力を入れています。



狭心症とは、心臓の血管が狭くなることで胸の痛みや違和感を感じる病気です。狭心症の主な原因は、冠動脈の動脈硬化です。動脈硬化とは、右図のようにコレステロールなどの脂肪の塊(プラーク)が血管の壁に蓄積することで、血管が厚く、硬くなった状態をいいます。冠動脈に動脈硬化が起こると、血管の内側が狭くなって血流が低下します。特に、体を動かして心臓がたくさん働く状態のときに症状が出やすく、これを労作性狭心症と呼びます。症状は、押し付けられるような胸の圧迫感や締め付けられるような胸の絞扼(こうやく)感と表現され、人によっては、左肩から左上肢にかけて、顎(あご)や歯に痛みが広がる放散痛を伴います。

また、その血管内のプラークが破れることで血管内に血の塊(血栓)が形成されることがあります。その血栓によって冠動脈が完全に詰まってしまうと、心筋梗塞に至ります。心筋梗塞を発症すると、安静時でも強い胸部症状が出現し、「今まで経験したことのない激しい胸痛」を訴え、救急車で搬送されてくる方が多くみられます。心筋梗塞は、治療が普及した現在でも発症すると約7~10%の方が亡くなるという、非常に怖い病気です。

そこで重要になってくるのが、原因となる動脈硬化の予防です。喫煙・肥満・運動不足といった生活習慣が原因でなる生活習慣病、つまり高血圧症・脂質異常症・糖尿病によって動脈硬化の危険性が高まります。これらをしっかり管理することで、動脈硬化の進行を抑え、狭心症や心筋梗塞の予防につなげることができます。また、生活習慣病は自覚症状がないので受診のきっかけを逃し、そのま

まにしている方もいます。しかし、大病を予防する上では症状が出る前段階から向き合い、治療や対策を始めることが大切です。当院では、血液検査やレントゲン、心電図、心臓超音波検査などに加え、冠動脈CTと呼ばれる検査も可能です。最新鋭の検査機器を導入し、心臓の動脈硬化や血管の狭くなっている部分があつかいできます。

狭心症の症状は数分で治まることが多く、自覚しにくい場合もありますが、心筋梗塞などの重い病気につながる恐れがあります。心臓や血管に関する病気や不安な症状があれば、まず循環器内科を受診してください。当院では、適切な予防・検査・治療をご提案させていただきます。普段の生活の中で胸の痛みを感じたことがある方はもちろん、健康診断を受けた方、生活習慣が気になる方は、どうぞお気軽にご相談ください。

等潤病院の公式Instagramでは、当院のことや健康に関する役立つ情報をわかりやすく発信しています。Instagramをお使いの方は、ぜひフォローや「いいね!」をお願いいたします。

理事長コラム 健康のおはなし vol.10

乾燥を防ぐ入浴法とスキンケア

社会医療法人慈生会等潤病院長室 公式キャラクター「どくとるまーしい」

スマホ世代を強く意識した工夫

慈生会だよりは、スマートフォン世代を強く意識した誌面になっています。伊藤理事長の健康のおはなし「理事長コラム」のほか、慈生会の医師の外部講演があれば、二次元コードで閲覧できるようにしています。

伊藤理事長を公式キャラクター「どくとるまーしい」というキャラクターにして、患者やその家族に身近に感じてもらえるようにも工夫しています(図表3)。

また、慈生会本院の等潤病院、等潤メディカルプラザ、健診センター等潤、老健イルアカーサ、看護部、総合リクルート、それぞれのサイトに円滑に流入を促すように各サイトの二次元コードを誌面に配置しています。

さらに、公式Instagramを立ち上げて、年4回の慈生会だよりで追いきれない最新情報をアップデートしています。

毎号の特集を充実

毎号、力を入れているのが特集です。最近の52号では、

ICT(情報通信技術=Information and Communication Technology)、53号では「トータルリハビリケア」でした(図表4)。54号では、「緩和ケア」を取り上げています。

慈生会のICTは、地域の病院の中で群を抜いています。慈生会がICT化を加速化させるきっかけとなったのは、社会医療法人財団董仙会(石川県七尾市、神野正博理事長) 恵寿総合病院と、社会医療法人高橋病院(北海道函館市、高橋肇理事長)の視察でした。2011年に伊藤理事長自らが視察されたとのこと。董仙会では、慈生会と同様にメディカル・データ・ビジョンのPHRシステム「カルテコ」が稼働しています。董仙会、高橋病院、それぞれの法人は、医療・介護のICT化に対して先進的に取り組んでいました。

視察後すぐに慈生会のグループ施設でのICT化に着手。病院、診療所、老健施設を始めとする介護事業所、訪問診療などで電子カルテ・介護システムの相互連携・情報共有化を始めました。また電子カルテと連動して、

図表 4 特集ページ

特集
トータルリハビリケア
Focus

「おとなの学校」の「トータルリハビリケア」の現場の様子。患者さんがベッドでリハビリを受けている様子。

「おとなの学校」の「トータルリハビリケア」の現場の様子。患者さんがベッドでリハビリを受けている様子。

「おとなの学校」の「トータルリハビリケア」の現場の様子。患者さんがベッドでリハビリを受けている様子。

現場で「トータルリハビリケア」、生の声を聞いてみた～等潤病院編～

入院当初と比べ、病棟での生活を自分でこなせるようになり、リハビリの大切さを実感しています。退院後は入院前の生活を取り戻せるよう、散歩や軽いジョギングの方々が自宅環境を整えて下さり、その目標に一步步近づけていきました。退院後はまた元気にデイケアに通い、リハビリを続けたいと思っています。

スタッフ 作業療法士さん

「おとなの学校」の「トータルリハビリケア」の現場の様子。患者さんがベッドでリハビリを受けている様子。

「おとなの学校」の「トータルリハビリケア」の現場の様子。患者さんがベッドでリハビリを受けている様子。

「おとなの学校」の「トータルリハビリケア」の現場の様子。患者さんがベッドでリハビリを受けている様子。

現場で「トータルリハビリケア」、生の声を聞いてみた～イルアカーサ編～

さまざまなマシントレーニングがあり、ジムのような感覚で運動し始めることができました。家の環境に合わせたリハビリを提案してもらい、思ったより早く家に帰ることができました。退院前には、施設で慣れていたリハビリスタッフが様子を見てくださり、自宅に不安なく帰ることができました。一人一人のペースに合わせて、安心して帰ることができました。退院後はまた元気にデイケアに通い、リハビリを続けたいと思っています。

スタッフ 理学療法士さん、FDさん

「おとなの学校」の「トータルリハビリケア」の現場の様子。患者さんがベッドでリハビリを受けている様子。

「おとなの学校」の「トータルリハビリケア」の現場の様子。患者さんがベッドでリハビリを受けている様子。

「おとなの学校」の「トータルリハビリケア」の現場の様子。患者さんがベッドでリハビリを受けている様子。

「おとなの学校」の「トータルリハビリケア」の現場の様子。患者さんがベッドでリハビリを受けている様子。

「おとなの学校」の「トータルリハビリケア」の現場の様子。患者さんがベッドでリハビリを受けている様子。

「おとなの学校」の「トータルリハビリケア」の現場の様子。患者さんがベッドでリハビリを受けている様子。

ベッドサイドの患者やその家族が、提供された医療の内容、つまり、処方や検査結果、バイタルサインなどが分かるようになりました。現在はベッドサイドのタブレットで閲覧が可能です。

慈生会は2023年9月、地域医療における病院の未来の姿を示す「等潤メディカルプラザ」をオープンしました。同プラザは、医療・健康・介護の複合施設で、現在、等潤病院に併設されている健診センター等潤を拡充させるのを軸に、緩和ケアセンターを新設、腎センターといった病院機能を移設して拡大、リハビリテーションを強化するために通所リハビリテーション、通所介護（デイサービス）などの機能を持っています。

等潤メディカルプラザでは、リハビリテーションにも力を入れています。医師によって専門的なりハビリテーションが必要だと判断された要介護者が身体機能向上を目指す通所リハ「いきいき倶楽部等潤（デイケア）」、要介護者が自宅で自立した生活を送れるよう支援する通所介護「わくわく倶楽部等潤（デイサービス）」を新設し、すでにある本院の等潤病院と老健イルアカーサとの連携を強化しています。

慈生会では、これらのリハビリテーション強化に向け

た取り組みを「トータルリハビリケア」と名付けています。急性期、回復期、生活期（維持期）、訪問、それぞれのステージのリハビリテーションをシームレスに提供しようというものです。二次救急の指定を受けている等潤病院が、患者の早期在宅復帰を進めるうえで、病院と在宅との中間施設である老健「イルアカーサ」との連携をより強化し、デイケア、デイサービスを新規に設置することで、患者の在宅での日常生活の質の向上を目指しています。さらに、住宅型有料老人ホーム「やすらぎホーム常楽」も新設し、ゆっくり余生を過ごしてもらう住まいも完備しています。

デイケアにおける、トータルリハビリケアの具体的な取り組みとしては、高齢者の生活意欲や自立意識を高めることを狙いにした「おとなの学校」を開催しています。おとなの学校とは主に高齢者施設でできる学校形式のアクティビティで、特別な教科書を使った授業は職員のアイディアで五感を用いたりICTを活用したりしながら回想法や運動を実施。おとなの教科書は外部教材ですが、収録されている体操は大島さんが振付と歌詞を考案したという縁があったそうです。M